

令和5年度 英語教育推進事業 多治見市立笠原小学校の実践

【研究主題】生き生きとコミュニケーションを図る児童を育てる指導の工夫 ～笠原型コンテンツ・バイストの手法を用いた授業づくりと到達目標を活かした評価を通して～

学年の学習到達目標とつながりのある単元目標

1. 第2学年の目標「話すこと[やりとり]」

○自分のこと及び身近で興味ある事柄について、好きなもの(こと)、欲しいもの(こと)を、簡単な感想を交え、相手の理解や、内容について、確かめながら伝え合うことができる。

2. 単元の目標

○自分や家族が食べたいスープを作るために、自分や相手の欲しいスープの種類やその食材について、相手の理解や内容について確かめながら伝え合うことができる。

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知識】 ・スープの種類や、それらに入れる材料に関する語句やWhat～do you want?～I want～の表現について理解している。 【技能】 ・What～do you want?～I want～の表現を用いて、自分の欲しいスープの種類やそれらに入れる食材について尋ねたり、答えたりする技能を身に付けている。	自分や家族が食べたいスープを作るために、自分や相手の欲しいスープの材料や種類について、相手の理解や内容について確かめながら伝え合っている。	自分や家族が食べたいスープを作るために、自分や相手の欲しいスープの材料や種類について、相手の理解や内容について確かめながら伝え合うとしている。

※本単元における「聞くこと」については、目標に向けて指導を行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

《大前提として》

■第2学年における「**話すこと[やり取り]**」の学習到達目標(自分のこと及び身近で興味のある事柄について、好きなもの(こと)、欲しいもの(こと)を、簡単な感想を交え、相手の理解や内容について、確かめながら話すことができる)を達成するために、**本単元の目標を設定**しています。

伝え合う内容と必然性を重視した言語活動

第3学年 Unit 5 “What do you like?” の実践

【単元の目標】

○強いカードを集め、対戦し「笠原3-2マスター」になるために、自分や相手の好きなもの(こと)について、その場で簡単な質問をしたり、答えたりしながら伝え合うことができる。

児童は、単元を通して、仲間と**やり取り**しながら、より多くの情報を集めて、強いカードを作成していく。「笠原3-2マスター」になるという**伝え合う目的**があるために、伝え合う**内容が豊か**になり、**主体的に**言語活動に取り組むことができます。



児童が本時のねらいを達成するための中間指導(交流)

第5学年 Unit 2 “When is your birthday?” の実践

【単元の目標】

○クラスの友だちにバースデーカードを作って贈り合うために、誕生日や欲しいもの、好みなどを、具体的に質問したり、答えたりすることができる。

5 Introduction ①ALTとHRTのやりとりを見て、本時の課題と目的を理解する。 ・相手の喜ぶバースデーカードをつくるために、くわしく情ほうを伝え合おう! 10 Activities ②活動Ⅰ ペアをつくり、質問しながら情報を集め、インフォメーションカードにメモしておく。 A: B: Hello. A: When is your birthday? B: My birthday is (June 17th). A: (June 17th) OK? B: OK! A: What do you want for your birthday? B: I want books. A: What books do you want? B: I want Pokemon books. A: I see. Thank you! B: You are welcome! 15 ③中間交流Ⅰ 離した英語表現について交流し、第3～5時で慣れ親しんだ表現を活用して、自分が相手にできる質問を考える。 22 ④活動Ⅱ 同じペアに内容を工夫して質問をし、情報をさらに集める。 A: B: Hello. A: How many books do you want? B: I want 5 books. A: What Pokemon do you like? B: I like Pikachu. A: OK A: What Pokemon book do you want? B: I want “Pokemon 空想科学読本” A: OK. Thank you. B: You are welcome! 28 ⑤中間交流Ⅱ カードのデザインに対する質問や工夫して伝え合っている姿を交流し、自分にもできそうな質問や答え方を考える。 35 ⑥活動Ⅲ できなかった質問や答え方を考え方に挑戦する。	・結果的活動で、自分が集めた情報をもとに他の仲間がバースデーカードを作ること伝える。責任をもって集めなくてはならないという思いをもたせる。 ・簡単な質問で得た少ない情報で作ったバースデーカードをALTに渡すことで、もっと相手の喜ぶカードを作るためにはどうしたらいいかを考えさせ、課題化を図る。 ・必ず必要な情報である『誕生日』と『欲しいもの』の尋ね方、答え方について確認する。 ・ALTの質問の内容を振り返ることで、どんな情報が必要で、そのためにどんな質問をしなればいいのか意見を交流する。 ・交流中、自分で質問を考えて詳しく聞いている児童を認めていく。 ・班首の表現を模倣して、より多くの情報を集めて作ったバースデーカードをHRTに渡す。 ・言い換えられるよう、繰り返し英語表現の練習をする。 ・HRTとのやりとりで用いた表現を児童と確認しながら練習する。 ・人数の関係でペアが組めない児童と活動を行い、学級によきを広める。 ・単元の終末で児童が作ったバースデーカードのモデル2種類 ・カード作りに必要な質問の表現を記した掲示シート ・インフォメーションカード
--	---

【中間交流Ⅰ】
(取り上げたい児童の姿)
・質問したいことがうまく英語で言えなかった児童の姿。また、詳しく尋ねたり、答えたりしている姿。
(指導・援助)
・詳しく聞き取るための質問の仕方考えさせ、意見を交換し、生かせるようにしていく。

【中間交流Ⅱ】
(取り上げたい児童の姿)
・バースデーカードを作る上で必要とされる情報をうまく聞き出している姿や、相手に分かりやすく情報を答えている姿。
(指導・援助)
・質問するだけでなく、答える側も付け足して情報を提供できるように促す。

【中間指導(交流)Ⅰ】

<言語面での指導>

質問したり、答えたりする表現について指導している。

【中間指導(交流)Ⅱ】

<内容面での指導>

本時の学習課題(相手が喜ぶバースデーカードをつくるために、詳しく情報を伝え合う)を達成するために、どうしたらよいか指導している。

ここが秀逸!

- ・多治見市立笠原小学校は、文部科学省による研究開発学校の指定のあと、教育課程特例校及び英語教育推進校として、改善を図りながら、研究を進められています。
- ・今までの研究で培ってきた「伝え合う内容と必然性を重視した言語活動」を当たり前実践するとともに、本年度は、特に、学年の学習到達目標とつながりのある単元目標の設定や児童が本時のねらいを達成するための中間指導(交流)の在り方に取り組まれてきました。